

朝み発第592号

令和05年01月24日

国土交通大臣 殿

朝霞市長

社会資本総合整備計画について

「社会資本整備総合交付金に係る計画等について」第1第1項に基づき、別添のとおり社会資本総合整備計画を取りまとめたので提出する。

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和04年12月07日

計画の名称	朝霞市におけるグリーンインフラ整備計画												
計画の期間	令和05年度 ~ 令和07年度 (3年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	朝霞市												
計画の目標	<p>地域コミュニティの強化</p> <p>グリーンインフラの考えに基づく公園の整備や駅前のオープンスペースの創出により、公共空間の緑化、都市における潤い、憩いの場づくりを図るとともに、花壇等を設置し地域ボランティアが緑のまちづくりに参加する場や賑わいづくりに資する活動を行う場を創出することで、地域コミュニティの強化を図る。</p> <p>防災力の向上 各公園及び朝霞駅前公有地は、グリーンインフラ整備事業として雨庭等を設置し、浸水被害の低減に向けた雨水浸透機能の向上に資する整備を行うほか、かまどベンチやマンホールトイレ、防災パーゴラ、井戸など、災害時にも活用可能な設備を配置し、災害時の一時避難場所としての機能強化を行うことで、地域防災力の向上を図る。</p> <p>ヒートアイランド現象の緩和 各公園や朝霞駅前公有地において、雨庭や緑化舗装による水の蒸発散効果や、木陰トンネル、グリーンシェードベンチ等による日陰の創出により、ヒートアイランド現象の緩和、暑熱対策を図る。</p>												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	883	A	883	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (R5年当初)	中間目標値 (R6年末)	最終目標値 (R7年末)
1	災害時に避難可能なオープンスペースの確保がされた公園数が0か所(R5)から3か所(R7)に増加 防災機能を備えた公園の数	0か所	1か所	3か所
2	雨水浸透機能を有した公園等の面積の増加 雨水浸透機能を有した公園等の面積	0㎡	5931㎡	7230㎡
3	高齢者の利用者数の増加 日陰ベンチの設置を図る	20人/日	60人/日	80人/日
4	公園における地域コミュニティ形成の推進 ボランティア団体数	21団体	22団体	24団体
5	公共空間の暑熱対策の推進 日陰の創出による公共空間における地表面温度の低下状況	0	-5	-5

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	-	避難行動要支援者名簿の提供	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---	---------------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												R05	R06	R07	R08	R09				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	朝霞市	直接	朝霞市	-	-	グリーンインフラ活用型 都市構築支援事業	用地取得、整備工事等	朝霞市						883	1.91	-	
												小計						883		
											合計						883			

# 事前評価チェックシート

計画の名称： 朝霞市におけるグリーンインフラ整備計画

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性 (1) 上位計画との整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 (2) 地域の課題と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 (3) 地域の課題を踏まえて計画の目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 (4) 事業の必要性という観点から目標が設定されている。	○
II. 計画の効果・効率性 (1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 (2) 指標・数値目標が分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 (3) 事業内容は、計画の目標を達成する上で適切なものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 (4) 事業効果は、数値、指標等を用いて客観的に示されている。	○
III. 計画の実現可能性 (1) 計画の具体性が現実的な内容である。	○
III. 計画の実現可能性 (2) 事業実施のための環境整備が図られている。	○